



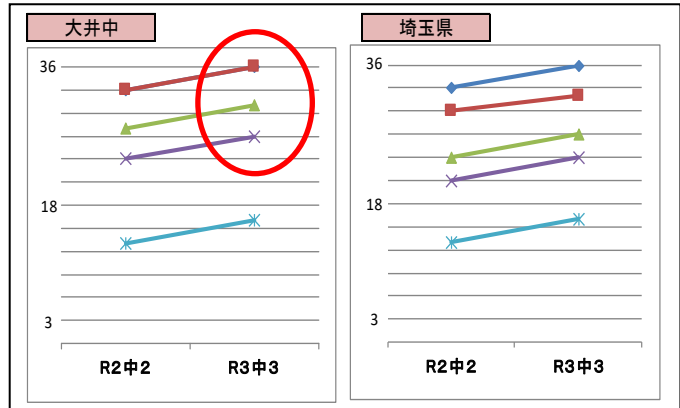
## 中学校2年生→中学校3年生の取組

### (1) 学力の伸びから見られる特徴【英語】

#### 今までの学力の変化

|   |       | 中学校2年生 | 中学校3年生 |
|---|-------|--------|--------|
| 高 | レベル12 |        |        |
|   | レベル11 |        |        |
|   | レベル10 |        |        |
|   | レベル9  |        |        |
|   | レベル8  |        |        |
| ↑ | レベル7  |        |        |
|   | レベル6  |        |        |
|   | レベル5  |        |        |
| ↓ | レベル4  |        |        |
|   | レベル3  |        |        |
|   | レベル2  |        |        |
|   | レベル1  |        |        |
|   | 低     |        |        |

#### 学力の伸びの状況



- 学力のレベルが県平均に対し、中2では3段階高かったが、中3では4段階高くなっている。
- 学力のレベルが県平均より高い学力層でも、さらに学力の伸びが見られている。

### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

#### ア デジタルコンテンツを活用した学年で統一した授業の実施

同一学年を複数の教員で指導する場合、指導法の相違により学習進度や定着率に差が生じることが懸念される。本校英語科では授業で活用するデジタルコンテンツや教材教具を英語科教員で共同開発している。開発した教材教具は毎週の教科部会で活用場面等を協議、検討後に全学級統一した授業を実施することで質の高い授業を実現している。また、英語科職員全体で授業を創り、開発した教材教具を共有することにより、英語科職員の教材研究・準備の効率化につながり、働き方改革の一助となっている。



#### イ 主体的・対話的で深い学びを促す言語活動の実施

生徒の主体的な学びを促す言語活動実現のため、言語活動時において単なる「情報交換」で終わるのではなく、お互いの主張や考えに対して質問や意見交換に取り組んでいる。生徒一人一人がコミュニケーションの質を向上させようとする中で、会話の論理的な構成や、正確で適切な表現ができるようになり、対話的な学びによる生徒の考えの広がりや深まりが見られるようになった。

### 学校全体での取組

#### ア 学力向上のための話し合い活動の充実

令和2年度の「西部地区学力向上のための授業研究会」では特別活動の授業提供校として、感染症対策を施しながら、学力向上につなげる効果的な話し合い活動の研究に全校で取り組んだ。課題に対し「合意形成」へと導く指導法について研究を推進し、各教科の指導法の改善を図ることができた。

#### イ 生徒の学びを止めないICT端末を活用した「個別最適化された学び」の実現

ふじみ野市教育委員会の委嘱を受け、「生徒が見通しを立て、ICT端末を活用して学習する研究～GIGAスクール構想の実現に向けて～」を研究した。「生徒の学びを止めない」を合言葉に全職員でデジタルコンテンツ（授業動画・家庭学習課題等）を作成し、臨時休業期間中も学校ホームページから日々配信を行い、生徒の学習に対する不安解消の一助とする等、個別最適化された学びの実現に向け取り組んだ。

#### ウ 「主体的・対話的で深い学び」を促すソーシャルスキルトレーニングの導入

令和2年度から埼玉県教育委員会「生徒指導モデル校」として、生徒同士の望ましい人間関係を育むため、毎月第2火曜日に「TFC (Tuesday Friends Communication)」として全校でソーシャルスキルトレーニングに取り組み、生徒間の望ましい人間関係を育むことができた。